

生産者を惹きつける日本のブルーベリー市場

[Blueberries Consulting Magazine 2025年9月2日](#)

メキシコ、米国、チリが売上をリード

日本のブルーベリー市場は、多くの生産者が参入を熱望する出荷先である。品質と長期的な関係性を重視する高所得の消費者が多い市場として知られる日本は、今後注目すべき重要な販路となる可能性がある。

ブルーベリーコンサルティングが、現在8カ国が共有している日本市場で何が起きているのかを分析する。

日本は2024年に、約2,500万米ドルに相当する1,895トンのブルーベリーを輸入した。さらに、日本市場には明らかに少数の主要輸出国が集中しており、主に南北アメリカに偏っている。このアジアの巨人(日本)にブルーベリーを供給している国は、メキシコ、米国、チリである。また、これらの国に比べて少ない量ながら、カナダ、英国、アラブ首長国連邦、ニュージーランド、中国からの供給もある。

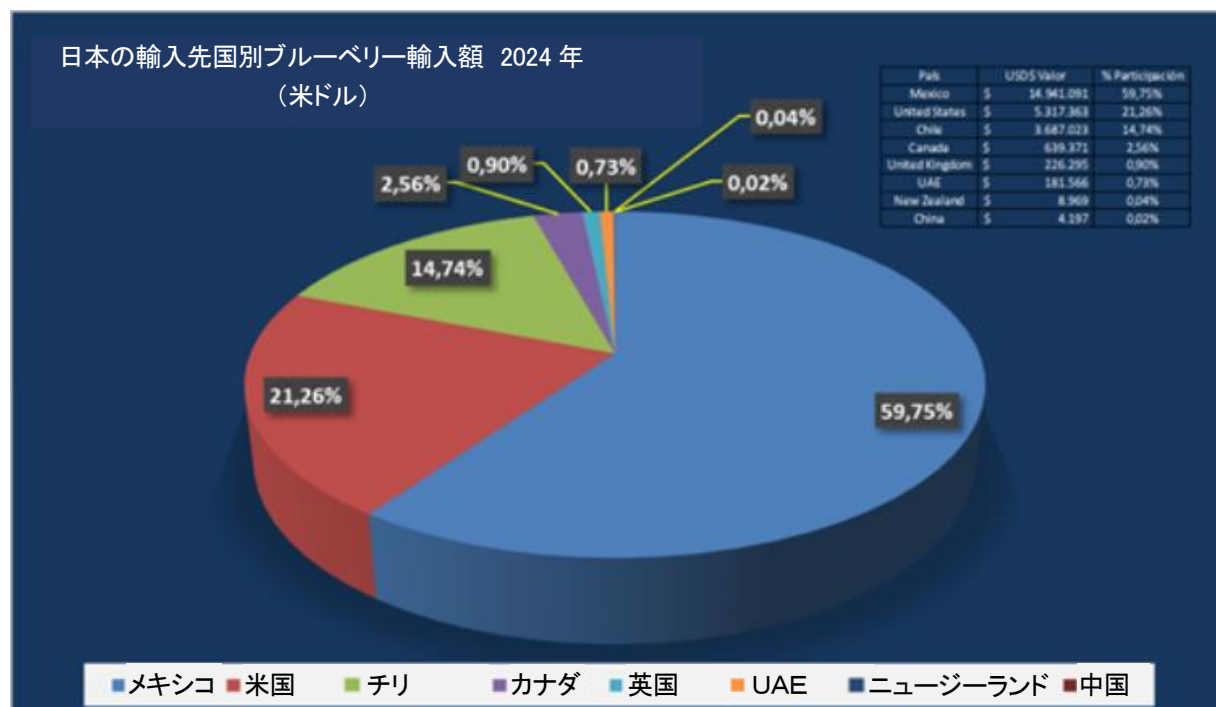
国別の分析 2024年には、メキシコが59.75%を占めて日本向けブルーベリー輸出の絶対的リーダーであり、米国が21.26%、チリが14.74%でこれに続いた。

メキシコの輸出額は約1,500万米ドルで、日本とのブルーベリー貿易をリードしており、全体の出荷量が少ない時期に強い存在感を示している。

米国は500万米ドル強で第2位である。日本市場における同国の存在感は、地理的に近いこと及び両国間の貿易協定によるものである。チリの輸出額は360万米ドルであり、第3位の地位は季節が逆転した生産と効率的な海上物流によって強化されている。

カナダの場合、市場シェアが小さい(2.5%)のは、供給量が限られているほか高品質なニッチ市場に注力している可能性が考えられる。英国のシェアは極わずかであり、これは再輸出であるか、高級志向のニッチ市場に特化している可能性がある。

最後のグループのうち、アラブ首長国連邦は不自然なシェアを示しており、物流ハブからの再輸出による可能性がある。ニュージーランドは季節が逆転している有利性はあるものの、供給量は限られている。そして中国は、植物検疫上の制約により象徴的な数量となっている。



Agronometrics Global Trade Data に基づきブルーベリーコンサルティングが調整

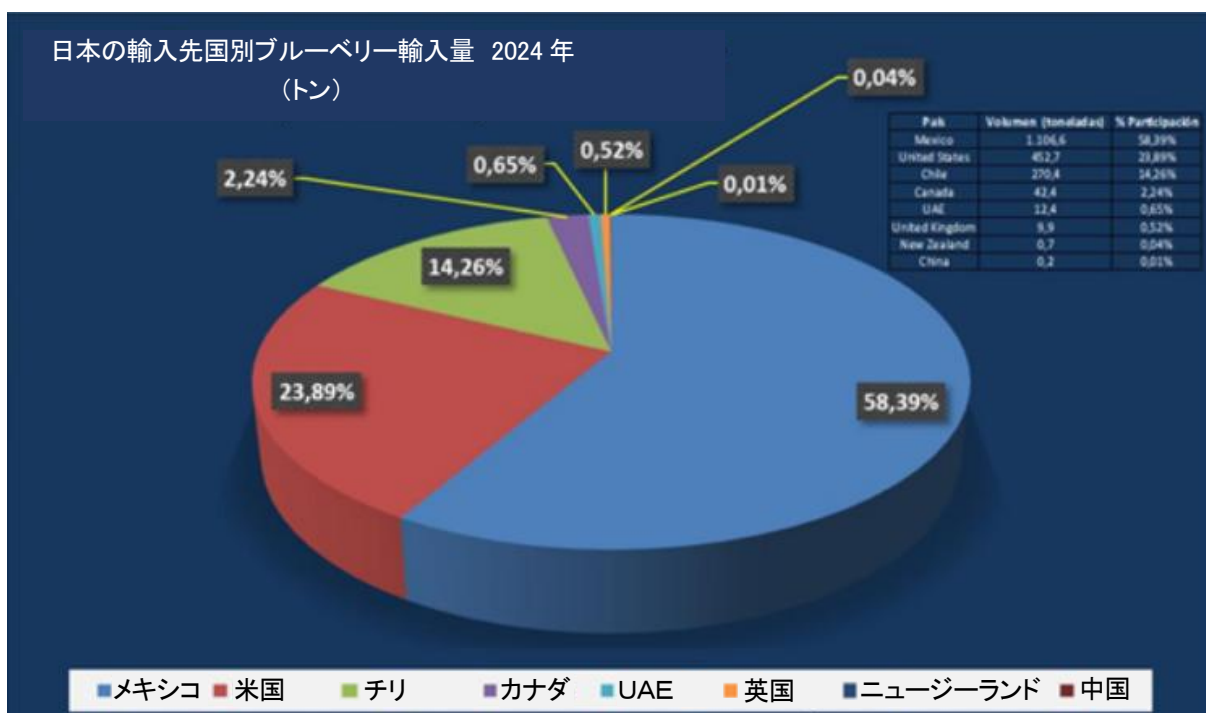
上図内の表の拡大

国名	金額(米ドル)	割合(%)
メキシコ	14,941,091	59.75%
米国	5,317,363	21.26%
チリ	3,687,023	14.74%
カナダ	639,371	2.56%
英国	226,295	0.90%
アラブ首長国連邦	181,566	0.73%
ニュージーランド	8,969	0.04%
中国	4,197	0.02%

下図内の表の拡大

国名	数量(トン)	割合(%)
メキシコ	1,106.6	58.39%
米国	452.7	23.89%
チリ	270.4	14.26%
カナダ	42.4	2.24%
アラブ首長国連邦	12.4	0.65%
英国	9.9	0.52%
ニュージーランド	0.7	0.04%
中国	0.2	0.01%

Agrometrics Global Trade Data に基づきブルーベリーコンサルティングが調整(左右とも)



Agrometrics Global Trade Data に基づきブルーベリーコンサルティングが調整

戦略的観察: 日本市場のダイナミクスを決定するいくつかの重要な要素がある。まず、メキシコの優位性は、他国の供給量が少ない時期の生産能力及び有利な貿易協定によるものである。

チリと米国は、補完的な季節性と輸出経験を活用して、メキシコの強力な競争相手になりつつある。

中国の低調な参入は、地理的に近いことを考えると確かに驚くべきことであるが、それは植物検疫の障壁、品質に対する認識、または二国間協定の欠如によるものであると考えることができるかも知れない。

間もなく、とある大輸出国が日本市場に参入すると見られることを指摘することができる。世界最大のブルーベリー輸出国であるペルーは、日本市場への参入の最終段階にある。

物流の影響: 輸出国に南北アメリカ諸国が多いことは、日本向けのこの品目の長距離海上物流が十分に確立されていることを示唆している。

一方、アラブ首長国連邦や英国といった国の存在は、物流ハブや間接的な輸送ルートを活用を示唆しており、コストと時間の最適化に向けた新たな可能性を開くものである。

出典: Blueberries Consulting